

Faculty of Engineering Okayama University

岡山大学工学部 同窓会報

No.33
2021.8

Contents

工学部長挨拶	2	職場紹介、各支部報告	15
代表幹事挨拶	3	岡山大学での思い出と近況 森山 英明	19
退職にあたって	4	寄付者一覧	21
各系の最近の話題	6	会計報告	22
新生「工学部」創設に寄せて	9	同窓会事務局より	23
工学部同窓会からの新生「工学部」設立記念航空写真の寄贈	14	編集後記	24

新生「工学部」の誕生



工学部長
菅 誠治

2021年4月1日、新生「岡山大学工学部」が誕生しました。地元の大きな期待の中、岡山大学としては6番目の学部として1960年に創設された工学部。国立大学としては初めて環境という名前を冠した学部として1994年に誕生した環境理工学部。この2学部が再編統合して、Society5.0 for SDGsの実践教育をスローガンとする新生「岡山大学工学部」がスタートを切りました。新1年生として、627人が入学しております。

新しい工学部は「工学科」1学科制とし、その中に4つの系（機械システム系、環境・社会基盤系、情報・電気・数理データサイエンス系、化学・生命系）と10コースを配置することにより、工学のほぼすべての専門分野をカバーしました。新生工学部では、従来の学科の枠にとらわれない分野横断的な学びを通じて、未来の社会を牽引していくことのできる「幅広い視野をもち、社会課題を発見・把握し、主体的に解決できる創造的な工学系人材」を養成します。

新生工学部の目玉の一つが、環境・社会基盤系都市環境創成コースに新設される「建築教育プログラム」であり、もう一つの目玉は情報・電気・数理データサイエンス系の数理データサイエンスコースです。前者は、岡山大学における初めての建築系の教育プログラムであり、この構想を実現するために建築家の隈 研吾先生に本学特別招聘教授として多大なご助言をいただきました。後者はデータサイエンスの重要性とそのプロフェッショナルの育成が強く叫ばれている昨今、この分野の教育を推進するためのコースです。

岡山大学も昨年からの新型コロナウイルス禍で大きな影響を受けていますが、2020年度後半は、対面授業もある程度再開でき、また、2019年度は実施できなかった卒業式も、卒業生のみ参加にはなりましたが、なんとか実施できました。この調子で新工学部の誕生を迎えることができれば・・・とっておりましたところ、第4波の襲来で、現時点では授業は原則オンライン、研究活動も限られた人数で実施しているという状況になっております（5月31日現在）。

このような状況の中、大人数が一度に入れる講義室を含めた新しい建物の構想が進んでおります。この建物は新しい工学部の新たな学び舎となるだけでなく、地域や企業の皆様とともに学びあい交流できる空間となる予定です。大変心苦しいのですが、別途、ご寄付のお願いをさせていただきます。各段のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

岡山大学工学部は新しい第一歩を歩み始めました。同窓生の皆様方の変わらぬご支援と後輩への引き続きのエールを何卒よろしくお願い申し上げます。

工学部 工学科 定員 610人	機械システム系 160人	機械工学コース ロボティクス・知能システムコース
	環境・社会基盤系 90人	都市環境創成コース 環境マネジメントコース
	情報・電気・数理 データサイエンス系 190人	情報工学コース ネットワーク工学コース エネルギー・エレクトロニクスコース 数理データサイエンスコース
	化学・生命系 170人	応用化学コース 生命工学コース

※各系の募集人数は目安です。

新生「工学部同窓会」からのご挨拶

新 入生の皆様には、岡山大学工学部に入学されて5か月が経過しました。昨年来のコロナ禍により、入学後もリモート講義主体の学生生活を余儀なくされ何かと苦労されていることと思います。一日も早くこの状況から脱して、正常な学生生活へと回復することを祈るばかりです。

さて、この機会に、世の中の価値観が大きく変化しようとしています。大きく言えば明治維新や戦後の大変化のような大きな転換の契機になるかもしれません。そのような観点から、この機会に様々な技術革新や発想の転換がなされ、むしろ新しい挑戦の契機とする試みが多くなされています。どうか、この時に獲得すべきスキルを身に付けて今後のニューノーマルな時代を牽引する人材として育てて頂くことを期待しています。

本年4月には、工学部と環境理工学部が合併し、新たに新生「工学部」が誕生しました。これに合わせて、同窓会も旧来の「工学部同窓会」と「環境理工学部同窓会」が合併し、新生「工学部同窓会」となりました。組織の詳細は、本会報9ページに掲載されていますが、新入生から新生「工学部同窓会」に入会することとなりました。新生「工学部同窓会」は学部定員610名の学内最大の学部の同窓会になりますが、それを活かした同窓会へと発展することを願っています。

昨年には工学部創立60周年を迎え、一期生も傘寿を迎えています。会員の年齢層の厚みも増し、現役層はあらゆる分野の第一線で活躍されています。この間、同窓会のお世話をさせて頂き、様々な方々と交流し、仕事のことや生き方の上で大いに刺激を受け楽しませて頂きました。同窓会をハブとして、予期しない人脈や仕事が繋がっています。新生「工学部同窓会」発足を契機に、益々幅広い異分野の方々とのネットワークが創られる同窓会へと発展することを期待しています。

大学・学部からも様々なご支援や配慮を頂いていることに感謝しています。今後、同窓会がさらに力をつけて、様々な面で大学・学部と協力できる同窓会でありたいと願っています。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りしています。



工学部同窓会代表幹事

酒井 貴志

(1970年合成化学科卒)

工学部同窓会の活動

- ① 会員名簿の整備：個人情報保護のため、冊子体での名簿発行は行わず電子媒体で名簿情報を管理しています。住所等の変更がありましたら、是非とも事務局までお知らせ下さい。
- ② 「岡山大学工学部同窓会報」の発行：毎年、8月初旬に発行しています。読んで頂ける会報を目指し、学内外の会員の活動情報を発信し、会員相互のネットワーク作りを目指しています。
- ③ 「岡山大学ホームカミングデイ」（毎年10月）における工学部同窓会総会、報告会、懇親会の開催：大学及び工学部で様々な企画があり、多方面で活躍されているOBと繋がりあう機会となります。
- ④ 各系同窓会の活動：各系同窓会の幹事が中心となって、系独自の行事—OBの企業体験講演会、見学会、交流会、各系教育支援活動、及び学部同窓会活動支援など—を行っています。
- ⑤ 学部教育活動の支援：学部の講義等への講師派遣、オープンキャンパス、ホームカミングデイ行事等への支援を行っています。
- ⑥ 関東支部、関西支部、岡山支部の各支部活動支援、新支部創設活動の支援を行っています。
- ⑦ 岡山大学Alumni全学同窓会の活動を支援しています。
- ⑧ 会費：入学時に10,000円を頂いています。（全学同窓会：10,000円）

退職にあたって

「お世話になりました」

情報系学科

谷口 秀夫



岡山大学には、平成15年4月に教授として着任し18年間お世話になりました。その間、学科長（2回）、副学部長（2年間）、学部長（2期4年間）、理事・副学長（3年間）を仰せつかりました。

教育では、オペレーティングシステムや情報ネットワークに関する科目とともに、私の企業人としての経験をもとに社会人基礎力についても講義させていただきました。また、百名以上の学部学生の卒業研究を指導し、博士前期課程への進学率を8割以上にすることができました。博士後期課程の学生も十名以上指導しました。多くの学生の指導に携われ楽しく過ごさせていただきました。また、研究では、基盤ソフトウェア、特にオペレーティングシステム分野に関する研究を進め、多くの成果を出すことができました。現在、この分野は必要性がありながら絶滅危惧分野と言われており、やや心配です。

管理運営では、多くの方々のご協力をいただき、さまざまな事柄に取り組みさせていただきました。学科長としては、時間割の見直し、就職情報のWeb化、女子トイレの充実などを行いました。副学部長としては、7学科から4学科への再編に携わりました。学科の卒業要件単位を統一し、転コースや転学科を比較的容易にし、工学部のパンフレットの様式統一などを行いました。学部長としては、工学部50周年記念事業に携わり、新工学部を立ち上げました。また、文部科学省から求められた工学部系のミッション再定義の内容を立案し、経済学部

との連携科目を開始しました。この科目は、現在も、実践コミュニケーション論として実施されています。なお、国立大学53工学系学部長会議の大学連携推進委員会のメンバ（最終年度は委員長）を仰せつかりましたので、工学部の重要性を新聞やセミナーで全国に向け発信しました。任期途中からですが、副学部長を2名から3名に増やすことができました。理事・副学長としては、スーパーグローバル大学（SGU）採択を実現できました。この採択に向けた検討は、学部長最後の半年から始まり、採択まで1年の期間を要しました。また、文部科学省に教員再配置システムを提案し、「教育の実質化断行と基盤体制構築による「学びの構造化」の実現～新たな教員再配置システムに基づく教育改新～」と題して認められました。この2件により、文部科学省から非常に多大な支援を得ることができました。なお、教員再配置システムでは、工学部の教員が非常に少ないことを全学にご理解いただきました。また、広報を担当し、新聞広告などで岡山大学を多くの方々に知っていただく機会を増やしました。この効果のひとつとして、3年目の秋に、中国・四国編の大学ブランド総合力1位をはじめ獲得（従来は広島大学がずっと1位）することができました。

上記の活動では、多くの方々にお世話になりました。特に、管理運営では、教員の方々とともに事務職員の方々にも大変お世話になりました。感謝申し上げます。

大学の教員は、多くの仕事（教育、研究、および管理運営など）を抱えています。この量は非常に多いですが、企業人に比べ期限制約が緩やかです。したがって、各人の計画性が重要と思います。仕事を計画的に進め、楽しく過ごすことを勧めます。皆様のご活躍を期待しています。

退職にあたって

情報系学科

名古屋 彰



1955年生まれの私にとって、コンピュータとの最初の出会いは、中学生の頃にNHKの教育テレビで週1回放送されていた「コンピュータ講座」という番組でした。当時は企業や大学のごく一部にだけにコンピュータが導入されていた時代であり、この番組を受講しても紙の上でプログラムを書くという体験ができるだけでしたが、番組のテキストを購入し、毎週視聴することで、何となくコンピュータを理解できたような気がしていました。私自身はコンピュータに限らずエレクトロニクス全般に興味を持っていましたので、大学では電気系の学科へと進学しました。そして大学3年のときに8ビットのマイクロプロセッサを搭載した評価キットTK-80がNECから発売されたことを知り、早速購入して組み立て（すべての部品を半田付けする必要があった）、動作させたことが、実際にコンピュータらしきものを所有して使い込んだ最初の体験でした。これによってコンピュータの面白さにのめり込み、卒論では数千個のICからなるプロセッサの試作、修論ではマイクロプロセッサを用いたネットワークノードの試作を含む研究テーマに取り組むことができました。振り返ると、その頃からずっと一貫してコンピュータハードウェア関連の研究を続けてきたということになります。

修士課程修了後の1980年4月にはNTTに入社し、メインフレームコンピュータを開発している研究室に配属されました。ここでは私はCPU担当となり、国内の大手コンピュータメーカー3社との共同研究により、NTT仕様のメインフレームコンピュータDIPSの数機種を実用化するという体験をすることができました。その後、NTT本社の人事部門で2年間ほど勤務した後に、ハードウェアの自動設計技術を研究するグループに加わりました。ここでは私も含め研究者数人で自動設計ツールの開発（自らプログラミングして開発）に取り組んだ結果、ハードウェア記述言語SFLと設計自動化システムPARTHENONを完成させることができました。この技術は社内のみではなく他社にも販売され、LSI開発期間の大幅な短縮に役立てることができました。またハードウェアの設計教育にも有効で

あるため、大学等の多くの教育機関にも無償で提供しました。本学においても情報工学実験の授業で活用されていますので、情報系学科の卒業生は利用経験があるはずです。その後研究所では、アプリケーションに適した回路へと適宜再構成することで、処理効率を高める技術の研究を進め、電子情報通信学会においてはリコンフィギュラブルシステム研究会の設立に関わりました。

2006年4月に岡山大学に着任して以来、教育面ではコンピュータハードウェアやコンピュータアーキテクチャ関連の授業を担当していました。これらの分野の技術は日進月歩の変化を続けていますので、授業では教科書の内容だけではなく、常に最新的话题を提供するように心がけ、授業で用いるスライドの多くの部分を毎年アップデートしていました。また、かつてのメインフレームコンピュータや設計自動化システムを開発した際のいろいろな体験や、黎明期から最近までのコンピュータ業界の動向などの情報もできるだけ授業に盛り込んで、この分野への学生の興味が増すように工夫していました。

研究室においては、渡邊誠也助教とともに、ハードウェアの構成技術、並列処理技術や、設計自動化技術に関する研究を進めることができました。学生に対しては、これらの分野の技術動向を理解させながら、各学生が自身で問題を発掘しテーマを決定するように促しました。学生が提案してきた研究テーマに対しては、その研究は世の中でどのように役立つのか、どのような手法で研究を進めるつもりかなどを問いかけ、それらに明確に答えられない場合はテーマの見直しを求めました。学生によってテーマ決定時期の差異が生じましたが、何れも自身で考えて決めた研究を進めることで自主性が養われ、その後の活動においても有益になったものと思います。学生の学会発表等に対しての受賞も多数ありました。研究室では各季節ごとの懇親会や夏のゼミ合宿を毎年実施してきましたが、最後の1年間は新型コロナ禍のためまったくできないまま退職してしまつたことが心残りです。

以上、退職にあたって、教員としての15年間だけではなく、それ以前の経歴も含めて紹介いたしました。コンピュータハードウェアの技術が著しく発展してきた時代に、この分野に深く関わるることができたことはたいへん幸運だったと思っています。近年もAI向けの演算性能の強化、低消費エネルギー化など、技術の進展は留まることなく、今後も注視していきたいと思っています。終わりに、岡山大学のこれからの発展と皆様のご健勝・ご活躍を祈念いたします。ありがとうございました。

機械システム系の近況報告

機械システム系・系長 岡安 光博



2021年4月より工学部は、環境理工学部と統合再編し、学科を“工学科”の1学科、その下に4つの系および10コースとなりました。学生定員は610名で、中四国最大規模となります。4つの系は、機械システム系、環境・社会基盤系、情報・電気・数理データサイエンス系、化学・生命系

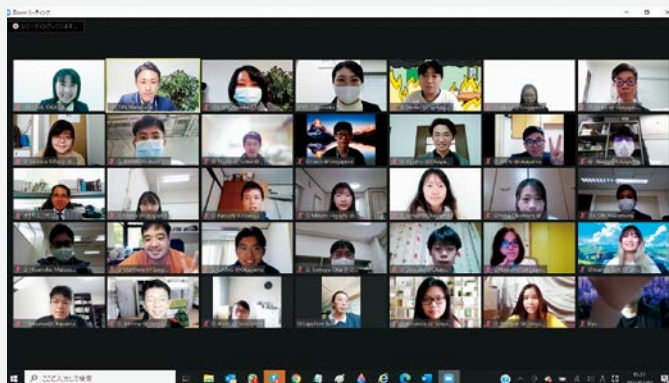
で構成されます。この機械システム系には、機械工学コースとロボティクス・知能システムコースの2コースあり、このコースは、再編前の機械システム系学科 機械工学コースとシステム工学コースに相当します。機械システム系は、構成員や研究室など、再編前と大きな変化はありませんが、コース配属時期が半期前倒しの2年次からになったことや、カリキュラムで、コミュニケーション論、数理データサイエンス科目、SDGs関連科目など、全系開講授業が設置されたことが主な変更点になります。

機械システム系では、この工学部の統合再編後も、多くの産業技術分野で活躍できる技術者を育成するために、機械システム工学の基礎学力や応用能力を養う教育だけでなく、課題探求能力、デザイン能力およびコミュニケーション能力を高める教育プログラムを実施していきます。さらに高い倫理観を持って国際的に活躍できる人材の育成にも取り組んでいきます。近年、海外の大学との交流や短期研修プログラムに参加する機械システム

系の学生は増加しており、グローバル化を意識している学生が増えているように感じます。

現在、新型コロナウイルスの問題で、授業のオンライン化や国際交流活動の制限はありますが、引き続き、熱心に教育活動に取り組んでいきます。同窓生の皆様におかれましても、今後とも機械システム系の発展にご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に機械システム系の教員移動について紹介します。令和3年3月31日付けで、機械工学コース李允碩助教が任期満了で退職、システム工学コース岡野訓尚助教が令和3年4月1日付けで立命館大学理工学部にて准教授として転出されました。新たなメンバーとして、令和3年4月1日付けで、鈴木博貴准教授と田中健人助教が機械工学コースに、芝軒太郎准教授、下岡綜助教、LIU ZIANG助教がロボティクス・知能システムコースに着任されました。そして河原伸幸教授が令和3年4月1日付けで准教授より昇任されました。



工学部オンライン国際交流活動（機械システム系学生含む）

環境・社会基盤系より工学部同窓会の皆様へ

環境・社会基盤系・系長 近森 秀高



工学部同窓会の皆様には、初めてご挨拶申し上げます。

私ども、環境・社会基盤系は、都市環境創成コースと環境マネジメントコースの2つのコースにより構成されております。所属教員には新任の教員もおりますが、ほとんどは環境理工学部の環境デザイン工学科と環境管理工学科から移行して参りました。

一昨年度に、工学部と環境理工学部との改組の話があり、その後、カリキュラム、入試の方法などさまざまな

案件を工学部の先生方、両学部の事務の皆様と協議・相談を重ねながらとりまとめ、ようやく今年度からの新工学部のスタートに漕ぎ着けました。お世話になった両学部の先生方、事務の皆様には心より感謝申し上げます。

まず、環境・社会基盤系の両コースの研究・教育内容を紹介させていただきます

都市環境創成コースは、土木教育プログラムと建築教育プログラムから構成されています。土木教育プログラムでは、インフラ（社会基盤）の整備、自然災害から命と財産を護ること、持続可能で健やかな社会を築くことなどの教育研究を行います。建築教育プログラムでは、地域社会に融合する建築デザインの実践、建築の歴史・

計画・法制度の整備、都市のエネルギーシステムなどの教育研究を行います。

環境マネジメントコースでは、単一の教育プログラムを提供しており、自然科学及び生態学的な視点から、人間活動と環境が調和した都市・地域空間のあり方や水・地域資源の持続的な管理について教育研究を行います。生態系サービスの機能と役割、人間活動と環境問題の複雑な関係を、農業農村工学と環境工学とを融合させたアプローチで実践的に解明し、さまざまな問題を解決するアプローチやスキルを開発します。

両コースにはさまざまな分野を研究対象とする教員がおりますが、都市や農地、森林域といった地理的に広い領域を支えるハード、ソフト両面のインフラに関わる研究内容が多いように思います。

工学部に移ってきて、最も戸惑ったのはその規模です。学生数は、環境理工学部は1学年4学科で160人程度でしたが、新工学部では1学年4系で610人程度。わ

れわれにとっては、1学年にこれまでの4倍近くの学生がいることとなります。大勢の学生を対象としての授業は、教養での授業である程度経験はありますが、専門科目の授業で、大勢の学生を相手に課題を出し評価することがスムーズにできるのかどうか不安なところです。とにかく慣れていくしかないと思います。

工学部同窓会の皆様には、今後、何かとお世話になることと存じます。何分不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけすることもあろうかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



情報・電気・数理データサイエンス系の近況報告

情報・電気・数理データサイエンス系・系長
豊田 啓孝



同窓生並びに旧教職員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。系を代表して情報・電気・数理データサイエンス系の近況をご報告申し上げます。

昨年8月工学部と環境理工学部を再編統合した新生工学部の設置が正式に文部科学省に認められ、今年4月に情報工学コース、ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース、数理データサイエンスコースの4コースを有する情報・電気・数理データサイエンス系としてスタートしました。設置準備のワーキンググループに約2年間携わった身としては、非常に感慨深いものがあります。

工学部電気通信系学科、情報系学科、環境理工学部環境数理学科が一つになった情報・電気・数理データサイエンス系の入学定員は190人です。これは元の3学科の合計よりも10人多く、工学部定員の約30%です。工学部統合再編の目的の一つが、昨今のAI、IoT、ビッグデータの進展に伴って曖昧となっているこれら3学科の境界を取り払い、一つの教育プログラムにまとめ、強化することです。1年次に広く専門分野を知り、2年進級時にコースを選択し学びを深化するコンセプトは受験生にも受け入れられ、志願倍率は一般選抜の前期日程が2.2倍、後期日程が10.2倍と工学部の中で最も高い結果となりま

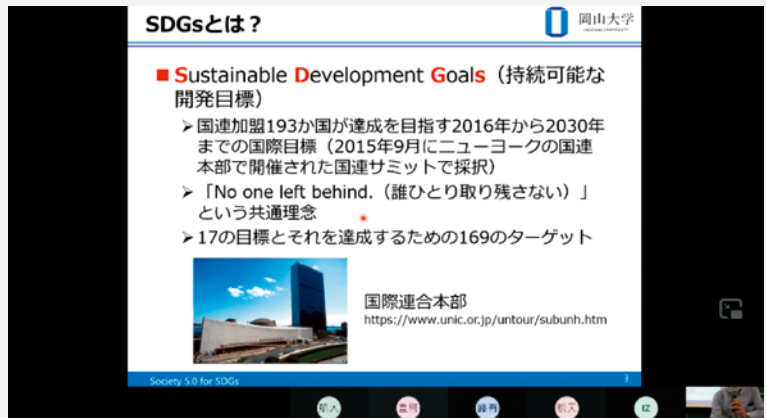
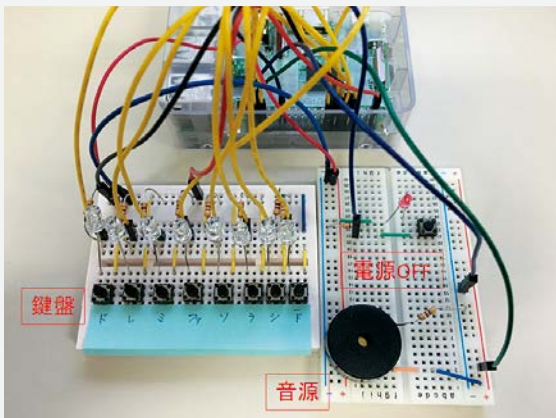
した。最終的に1期生として、留学生2名を含む197名を迎えることができました。

教員の異動につきまして情報・電気・数理データサイエンス系には、大林一平教授、渡邊実教授、梅谷和弘准教授、関本敦准教授、石原将貴助教の5名が4月に着任されました。また、山内利宏先生、竹内孔一先生がそれぞれ教授、准教授に昇任されました。1学年が約200名の大所帯ですが60余名の教員が協力して系の教育研究を担います。教員一人一人が身近な相談窓口のアドバイザーとして3~4名の学生をきめ細かくサポートし、コロナ禍でも学生が不安なく学生生活を送れるよう見守っています。

最後に、新入生の近況を簡単に報告します。第1学期開講の必修科目「情報・電気・数理データサイエンス系入門」では、新生工学部が掲げる「Society 5.0 for SDGs」にまつわるアイデアを、同じアドバイザーの3~4名のグループで自由に議論しました。新型コロナウイルスの第4波でやむなくオンラインで行いましたが、短時間にもかかわらず興味深いアイデアが多数提案されました。このグループワークは互いを知るきっかけにもなったようです。続いて、コース選択のための情報提供として、4コースに関係する分野の先端的な話題や社会的役割、本学における研究活動等を紹介しました。大学教員から直接聞く専門分野の話が、今後の勉学の意義を考えたり、漠然と抱いていたイメージが具体化したりするきっかけになればと考えています。

情報・電気・数理データサイエンス系として船出したところですが、系の教育研究の発展のため努力を続けて

まいります。皆様には引き続きご支援、ご鞭撻を賜りたく引き続きよろしくお願い致します。



第1学期開講の「工学基礎実験実習」で行っているラズベリーパイを用いた電子ピアノ制作と「情報・電気・数理データサイエンス系入門」のオンライン授業の様子

化学・生命系の近況報告

化学・生命系・系長 今村 維克



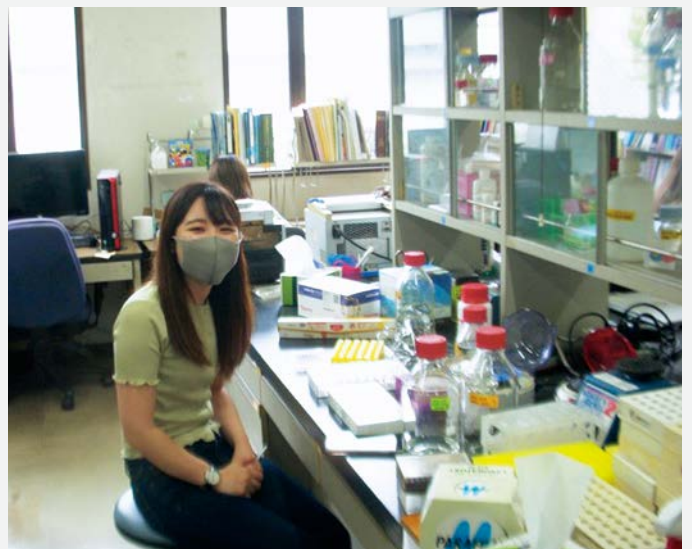
今年度4月より旧化学生命系学科と旧環境理工学部環境物質工学科が融合し、新工学部工学科「化学・生命系」として新たなスタートを切りました。生憎、開始早々リモートでの講義となってしまいましたが、本系の一期生達は真っ新なカリキュラムをこなし始めております。新工学科 化学・生命系のカリ

キュラムの大きく変わった点は、学部共通で設置された科目以外に、まず、系の専門教育科目に「環境」の概念が組み込まれたことです。旧環境理工学部の強みを取り入れるため実験科目の内容を見直すとともに、2年次以降に新たな科目が追加されました。また、旧化学生命系学科では2年後期より3つのコース(生命工学、合成化学、材料プロセスコース)に配属されていましたが、化学・生命系では「生命工学コース」と「応用化学コース」の二つのコースに2年生前期開始時より配属されます。現在の2年生以上には各旧学科の学生がおり、あと3年は新・旧両カリキュラムが並走することとなります。両旧学科の知恵を合わせながら、円滑な運営に努めたいと考えております。

研究活動については、生憎、一昨年度末から続くコロナ禍により、自粛期間の合間を縫うように行う時期もありました。研究できる時間の大切さを痛感するとともに、どうやって限られた期間で水準以上の成果を出すか、これまで漫然と引き継がれてきた段取りと無駄を、学生とともに根底から見つめ直す機会となりました。また、この一年は大半の学会発表がリモートとなり、学生に人前で研鑽の成果を披露する機会を与えられなかったのは非常に残念でした。唯一、博士前期課程の特別研究発表会を対面で実施できたこ

とは、大学教員としての意地を多少なりとも示せたかなと思います。

教員の異動としては昨年度より本格的に人事凍結が解除され、令和2年度以降の旧化学生命系学科での人事異動として、まず、令和2年4月1日付けで佐藤英祐助教(合成プロセス化学)がJohannes Gutenberg-University Mainzより着任しました。10月1日には近藤真矢助教(無機物性化学)が名古屋大学工学研究科エネルギー理工学専攻より着任しました。令和3年3月31日付けで飛松孝正准教授、川波和子助手が定年退職されました。令和3年4月1日付けで京都大学より三浦智也教授(工学研究科→有機金属化学)と高橋勝國助教(人間・環境学研究科→無機材料学)が、長岡技術科学大学より片岡卓也助教(無機バイオ材料工学)が着任されました。



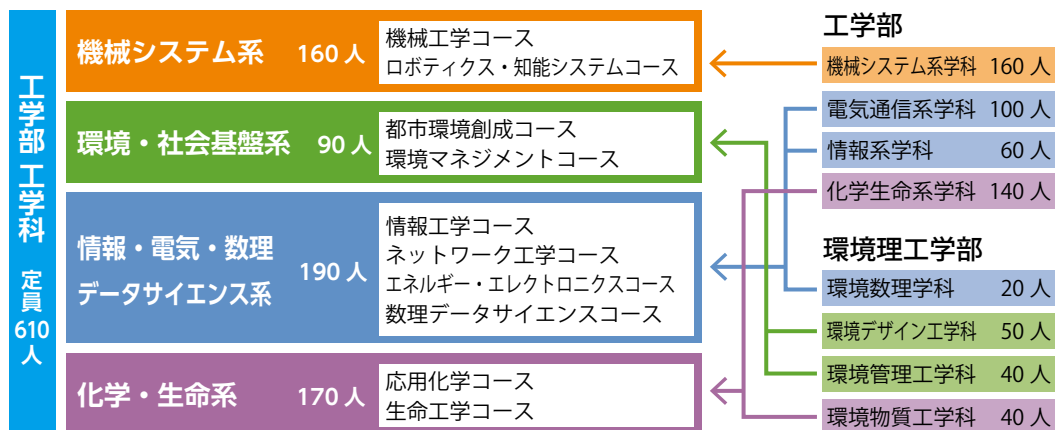
実験風景 戻りつつある日常とエントロピーの増大

新生「工学部」創設に寄せて

新生「工学部」の概要と同窓会の組織

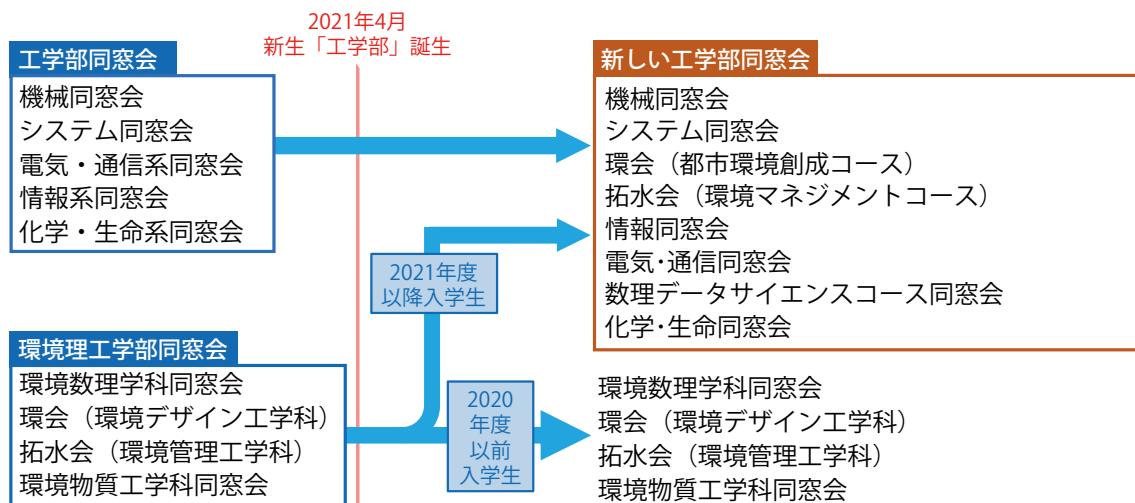
2021年（令和3年）4月1日に、工学部と環境理工学部との再編により新生「工学部」が誕生しました。新生「工学部」は、工学部の機械システム系学科、電気通信系学科、情報系学科、化学生命系学科と環境理工学部の環境数理学科、環境デザイン工学科、環境管理工学科、環境物質工学科が1学科に統合再編され、4つの系（機械システム系、環境・社会基盤系、情報・電気・数理データサイエンス系、化学・生命系）から構成されます。各系は2から4のコースからなり、学部全体では計10コースとなります。学部定員は610名で、その規模は中四国最大になります。

新生「工学部」は、「Society 5.0 for SDGs」の実践的教育を特徴として、幅広い視野をもち、社会課題を発見・把握し、主体的に解決できる「創造的な工学人材」を育成することを目標としています。



新生工学部の誕生

新生「工学部」の誕生に伴って、工学部同窓会と環境理工学部同窓会も新しい「工学部同窓会」として統合されます。2021年4月以降の工学部同窓会は、機械同窓会、システム同窓会、環会（都市環境創成コース）、拓水会（環境マネジメントコース）、電気・通信同窓会、情報同窓会、数理データサイエンスコース同窓会、化学・生命同窓会の系やコースに沿った下部同窓会から構成されます。なお、環境理工学部の同窓会については、2020年度以前の入学生はこれまで通りそれぞれの同窓会の会員、2021年度以降の入学生は新しい「工学部同窓会」の会員となります。



2021年4月以降の同窓会組織

卒業生からのお祝いのお言葉

新生「工学部」に寄せて



JFEスチール株式会社
西日本製鉄所(倉敷地区)
製鉄部 高炉改修班 楠本 久夫

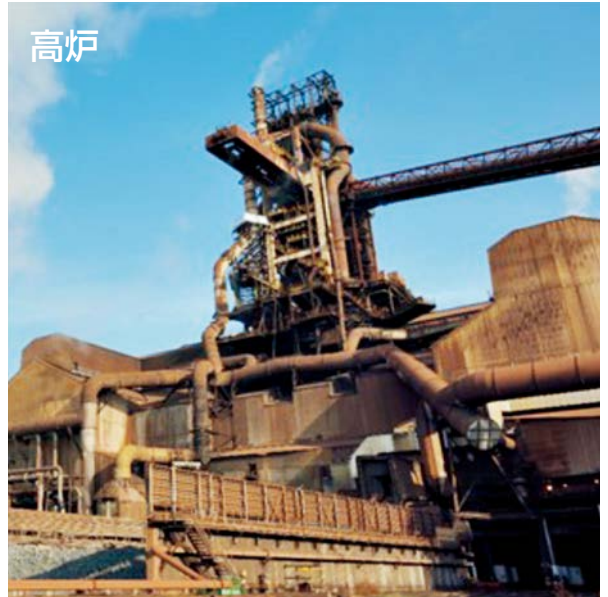
私は1994年3月に岡山大学大学院自然科学研究科機械工学専攻を修了し、同年4月にJFEスチール(株)(旧川崎製鉄)に入社、工場の建設、改造、保守などを担当し、機械エンジニアとして勤務しています。この度は、2021年4月に工学部と環境理工学部が合併し新生「工学部」が誕生した記念の時に寄稿させていただけることを光栄に思います。西日本最大級の工学部が誕生し、学部内の各学科を横断的に運営できることで、より幅広くかつ奥深い教育を受けられるのであらうと期待しています。

小職が勤めているJFEスチールは生産量が日本2位(世界12位)の鉄鋼会社で「高炉メーカー」と呼ばれ、原料である鉄鉱石から最終製品を一貫して生産しています。製鉄所の基幹設備である高炉は約20年に1回のペースで大規模なリフォームを行いますが、これを改修と呼びます。高炉はノウハウの塊であり、改修工事では新設備導入や改造を施し20年後も世界と戦える競争力を持たせます。私は現在、この「高炉改修」という大プロジェクト(予算規模500億円)に携わっています。

高炉をはじめとした巨大なプラントから成り立つ鉄鋼業の設備は高温、高荷重、高圧、腐食といった過酷な条件で使用される一方で高精度なものが要求されます。エンジニアにとっては、自身の経験や知識を駆使して大いに活躍できる場所です。

就職してから色々な壁にぶつかってきましたが、中でも技術的な課題に直面した際に、解決のための「取っ掛かり」を得ることができたのは大学で広い知識を得ていたからだだと思います。また、技術的なアプローチ方法や解を探す術は研究室でテーマを進めていく過程で身に着けたものです。問題解決への突破力は大学で養われ、磨きをかけることができます。

最後に、共感を覚えたエッセイを紹介します。「コンピュータでの解析が多用される現在では、結果が誤っていた場合、エンジニアとして何かしらの違和感を覚えるような直感性が必要とされ、この感覚を養うには原理原則をしっかりと捉えていることが不可欠である」というものです。根本的なところを理解する上でも新生工学部には大きなアドバンテージがあると思います。これからは担っていく皆さんには、この恵まれた環境を十分に生かして何事にも前向きに、様々なことをよく学び、経験して自身をしっかり磨いてほしいと願います。



高さ100m、容量5,000 m³の大型設備。2000℃を超える高温環境で天然原料を溶融する。生産量は1基で1万ton/日。



400ton、1500℃の溶鋼の成分をPPM(100万分1)オーダーでの中させる。



時速100kmで流れる全長2kmの鋼板の板厚をマイクロオーダーで制御する。

新生「工学部」に寄せて



西日本電信電話株式会社
(NTT西日本)

岸本 照之

1986(昭和61)年
電子工学科卒

このたびは、新生「工学部」の誕生、こころよりお喜び申し上げます。

昨年(2020年)の岡山大学工学部創立60周年記念行事に際し、阿部工学部長(当時)から記念式典での講演をお受けしましたがコロナ禍のために実現できず残念に思っていました。後日、岡山大学工学部六十年史を拝読させていただき、1960(昭和35)年の工学部創設時における熱い思い、取組みを知るとともに、次代を担うエンジニアの輩出も含め、世の中の動きを常に先取った教育・研究改革のご苦勞を垣間見ることができました。今日まで数多くの先生・関係者の皆様のご努力により成長・発展してきた工学部、環境理工学部が、更なる飛躍を目指し、今年4月から新生「工学部」が誕生しましたことを一卒業生として非常に嬉しく思います。

私自身の学生時代を振り返りますと、地元岡山で生まれ育ち、通信・放送関連に興味があり1982(昭和57)年に工学部電子工学科に入学しました。授業には出席するもののバイトに明け暮れ、バイト代を車につき込む生活でした。電子回路研究室(福井廉先生、野木茂次先生:3号館4階)ではマイクロ波分野の円筒空洞多素子発信器に関する研究に携わる事ができました。世の中ではパソコン(PC98など)、任天堂のファミコンが流

行った時期でしたが、計算機センターに通ってのFORTRANを利用した計算機シミュレーション、工作センターでの旋盤・NC加工機を利用した実験器具の製作(何度も失敗)、研究室での実験(理論・シミュレーションと測定値が合わないは当たり前)など数々の失敗・試行錯誤も含め幅広く経験できたことを今でも懐かしく思い出します。

1986(昭和61)年に日本電信電話株式会社(NTT:当時)に入社し、技術開発、設備計画、オペレーション&メンテナンスなど従事し、早いもので35年が経ちました。この間、通信業界の競争環境変化もありましたが、電気通信分野における先人の研究開発・実用化などのご努力により、情報通信分野の技術・サービスは劇的な進化を遂げてきました。インターネットの爆発的普及に伴い、今では世界中無料での会話も可能ですが、入社当時は東京~岡山までの電話料金は3分400円(昼間)でした。昔のSF映画・アニメで想像していた世界が身近な製品・サービスとして利用できる時代になりつつあります。

このようにデジタル機器をはじめとした「モノ」の豊かさ、インターネット、クラウドを通じて流通する膨大な「情報」により、インターネットにつながるものが当たり前、デジタル技術・デジタルデータを使いこなすことが当たり前、デジタルネイティブの時代になりつつあると言えます。その一方で増大するエネルギーへの対応、環境破壊への対応、サイバーセキュリティへの対応、コロナ禍で一気に加速したテレワーク、分散拠点などを活用した働き方改革、多種・多様な生き方・考え方を認め、受け入れるダイバーシティ&インクルージョンへの対応など、新たな課題がグローバル規模で顕在化し、解決目標をSDGsとして国連が定め、各国が企業を巻き込み国策として取り組んでいます。各企業においても企業憲章で取り組み姿勢を宣言するとともに、事業戦略の重要指標として取り組んでいる状況です。

Society 5.0 for SDGsの実践教育をスローガンに掲げた新生「工学部」の誕生は、近未来の社会動向、技術展望に同期しており、今後の取組みに大いに期待しています。工学とは、「数学と自然科学を基礎とし、時には人文社会科学の知見を用いて、公共の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することを目的とする学問である。」(工学における教育プログラムに関する検討委員会:1998年)との定義が示すように、各専門分野の深化&進化に加え、他分野の知見をいかに取り入れ、新たなソリューション・価値を世の中に創出できるか、社会の課題解決にどう貢献できるか、オープンイノベーションが求められています。私が勤務するNTT西日本においても、地域密着の「ソーシャルICTパイオニア」を目指すべく、地域の自治体・企業の皆さんが抱える課題解決に対し、産官学連携、スタートアップ企業とのアライアンス等を加速し、ICT(情報通信技術)を活用したオープンイノベーション実現に取り組んでいます。今後、様々な場面で皆様とご一緒できる機会を楽しみにしています。

最後になりましたが、新生「工学部」の発展・充実を祈念しますとともに、この工学部での学生・研究生活を通じ「未来を創る先駆者」を目指す学生・研究者の皆様の今後ますますのご活躍を期待しています。また、投稿の機会を与えて下さった皆様に感謝申し上げます。





工学部同窓会からの新生「工学部」 設立記念航空写真の寄贈

令和3年4月1日に「工学部」と「環境理工学部」が再編・統合し、新生「工学部」が設立されました。中四国最大の工学部となりましたが、その新たな発展を期待して工学部同窓会から新生「工学部」全景の航空写真パネルを贈呈しました。贈呈式・除幕式は、3月23日に工学部一号館玄関にて行われ、菅誠治副学長、阿部匡伸工学部長、難波徳郎環境理工学部長、酒井貴志工学部同窓会代表幹事を含めて、教職員約20名が出席しました。

詳細は、工学部ホームページを参照ください (<https://www.engr.okayama-u.ac.jp/>)



職場紹介



株式会社神鋼環境ソリューション

三國 俊也

電気通信系学科
(18年3月卒)

こんにちは。私は神戸に本社を置く（株）神鋼環境ソリューション（以下、SKS）で働いている三國俊也と申します。2021年で入社4年目、まだまだ新米の私ですがSKSのこと、そして私の働いている業界のことを少しでも知って頂けたらと思います。

早速ですが以下、2本立てで職場紹介をしたいと思っております。

①SKSとはどんな会社？どんな業界？

②私の入社後～現在（3年間）の仕事の紹介。

①SKSとはどんな会社？どんな業界？

SKSの事業メニューは多岐にわたり、「水処理関連」「廃棄物処理関連」「化学機械関連」「木質バイオマス発電」などがあります。

この度は私が担当する「廃棄物処理関連」を紹介いたします。「廃棄物処理関連」と言われてもピンとこない方が多数だと思います。皆さま小・中学生の頃、社会科見学でごみ処理場に行ったことはありませんか？まさにあの大きな建物を設計し、建設・運営・保守まで一貫して行う仕事になります。このように設計から保守まで一貫して行う仕事をプラントエンジニアリングと言います。プラントにも種類があり、鉄鋼プラントや石油化学プラント（←水島コンビナートを想像して頂ければ）、廃棄物処理プラント、水処理プラントなどがありますが、当社該当の事業は後者の2つです。ごみ処理や上・下水処理といった社会インフラを支える施設の設計・建設を行う公共性の高い仕事になります。

また、プラント建設は、様々なスペシャリストが参画する大プロジェクトとなります。我々の社内にも、ごみの流れ等を考える「プロセス屋」、機械を設計する「機械屋」、建屋を設計する「建築屋」、様々な流体を流す経路を考える「配管屋」、電気設備等を設計する「電気屋」などが在籍し、常に意見交換しながら仕事を進めていきます。また、設計・建設期間を合わせて数年（約4～6年）にわたり、非常にやりがいのある仕事です。

近年本業界では、機械の自動化や人工知能を取り入れたプラントの設計を行い、プラント運営を行う人の省人

化を行うシステム開発が盛んになっています。

②私の入社後～現在（3年間）の仕事の紹介。

入社後は4か月に及ぶ新入社員研修を行い、計電装技術部に配属されました。計電装技術部とは前記①で述べた「電気屋」と理解して下さい。配属後は2年間OJT制度があり、上司の下で業務をこなし仕事の進め方を覚えていきます。

以下、電気関係の業務説明になりますが、ご了承下さい。私の主な業務は、兵庫県のごみ処理場の電気・計装設計で入社後から現在に至るまで担当しており、完成は2022年3月予定の大プロジェクトです。（完成イメージは図1をご参照下さい。）設計内容は、計装設備の設計、電気設備の設計、電気・計装工事設計など多岐にわたります。大学で学ぶ電気回路やシステム制御、パワーエレクトロニクスは基本的な知識として役に立ちます。また、我々電気屋として前記①で述べた人工知能技術・自動化の導入にも取り組んでおります。

最後に、SKSがどんな会社か、どんな業界か少しでも理解して頂けたでしょうか？我々の仕事は社会インフラを陰ながら支える日々やりがいを感じられる仕事だと思います。無数にある業界からプラントエンジニアリング（できれば、SKS）に興味を持って頂けたら幸いです。



図1 東播臨海クリーンセンター（完成イメージ）



富士通株式会社

堀井 基史

大学院自然科学研究科電子情報システム工学専攻
修了（'16年3月）

私は、平成26年4月に大学院自然科学研究科電子情報システム工学専攻に進学し、オペレーティングシステムによる資源管理方法を研究していました。平成28年3月に修了し、同年4月に富士通株式会社に入社し、昨年度まで株式会社富士通研究所に出向していました。現在は、富士通株式会社のテクノロジー研究開発センターに所属しています。

昨今、『データ駆動型社会』といった言葉に代表されるように、あらゆる情報をデータとして蓄積し、サービス創出や社会制度設計に活用しようという動きが活発になっています。例えば、最近ではコロナウイルスに関するデータが蓄積され、様々な政策を決定するために利用されています。我々もこのデータ流通と活用に関する潮流の中で、様々な種類のデータをどのようにして適切に流通し、活用するかを検討しています。

我々の具体的な活動を紹介します。我々は、データに基づいたサービスを創出するためには、複数の企業が互いにデータを共有し、対等な立場でデータを利用する場が必要だと考えました。ここでの問題は、意図しない企業に意図しない目的でデータが利用されてしまう可能性があります。この可能性がある限り、各企業は、価値のあるデータを他の企業と共有することをためらう可能性があります。実際、展示会で複数の企業からそのようなお話を直接伺いました。意図せぬデータの共有を防ぐためには、まず、各企業が、データがいつ、だれに、どのような目的で利用されるかを確認できるようにする必要があります。次に、管理している情報に基づいて、データの流通と活用を制御する必要があります。我々は、このようなデータの流通と活用の制御をブロックチェーンの技術を用いて実現しました。この技術は、実際に東京の大丸有（大手町・丸の内・有楽町）エリアでの実証実験において利用され、データに基づいたサービス創出の場を作り出してきました。

現在は、個人情報の流通と利活用に注力しています。ここでの問題は、利用者のプライバシーです。例えば、企業Aと企業Bが、利用者の住所を管理しているとします。利用者の引っ越しにより住所が変更された場合、利用者は企業Aと企業Bの両方に個別に住所変更を申請す

る必要があります。利用者としては、申請内容が複数の企業間で共有されると、手間が減って楽です。しかし、利用者が気づかり知らぬところで利用者の個人情報が共有されてしまうと、利用者はプライバシーの侵害を恐れて、企業に個人情報を預けることをためらう可能性があります。このため、個人情報の共有を実施する前に、利用者から同意を得る必要があります。我々は、あるクレジットカード会社とある銀行との実証実験を行いました。この実証実験により、我々の技術が、利用者の同意を得るために利用可能であることと、それが企業にとっても利用者にとっても有益であることを実証しました。

データ流通と活用を取り巻く環境は、近年急速に整備されているものの、まだまだ素朴なものです。実際、私自身、プライバシーに関して検討しているものの、今この瞬間、誰がどのような目的で私の個人情報を管理しているかを把握しきれしていません。仮にプライバシーが



侵害されていたとしても、それを確認する手段すらありません。私は、自分の個人情報の流通と活用を自分で制御できない環境は不健全だと考えています。今後の研究開発では、このような環境を改善するための技術開発を進めていきたいと考えています。



岡山支部が2014年に設立されて7年目となります。昨年度は、コロナ禍の中で、直接会っての会合が出来なくなり、同窓会活動の難しい年となりました。その中でも、インターネットやパソコンに強い幹事がおられ、Zoomによるリモート形式の同窓会活動が提案され、月例親睦会の他、総会、講演会等が下記の通りZoomにて開催されました。

○支部総会 令和2年10月10日

○講演会 令和3年2月25日

講演者：渡辺富夫氏 岡山県立大学 副学長、情報システム工学科教授
(1978年 生産機械工学科卒業)

演 題：心が通う身体的コミュニケーション

○講演会 令和3年4月22日

講演者：二見淳一郎氏 岡山大学工学部化学生命系学科・蛋白質医用工学研究室
研究教授 (1994年 生体機能工学科卒、1996年 修士)

演 題：免疫をモニタリングする技術

Zoomは初めての方が殆どでしたが、練習会などを設けて会が開けるようになりました。これまで参加できなかった遠隔の方も参加できる良い機会となりました。同窓会は会っての活動が原則であると思いますが、必要に応じてリモート技術を取り入れた同窓会活動ができることも有意義と感じました。

その他に、大学支援として、工学部・経済学部共同講義「実践コミュニケーション論」への講師2名の派遣を継続しています。また、支部の広報として、岡山支部メールマガジンを発行（月刊メール配信）しています。配信希望の方は、支部までメールで連絡下さい。また、岡山支部HPでも閲覧できます。

工学部同窓会岡山支部HP：<https://okayama-u.sakura.ne.jp/wp/>（会員専用欄 パスワード okadaieng）

支部メール：okayamauniversitytech@gmail.com

岡山大学工学部同窓会関西支部は発足後7年目を迎えました。令和元年度は、岡大Alumni関西支部で総会を開催の予定でしたが、新型コロナウイルス汚染により、中止になったため、新春懇親会のみを実施しました。令和2年度の懇親会は、2月22日に京都市の「がんこ高瀬川二条苑」で開催しました。この会場での新春懇親会は関西支部発足後3回目です。

「がんこ高瀬川二条苑」は、角倉了以が別邸として高瀬川源流に造ったもので、明治の元勳である山縣有朋の別荘としても使用されたことのある由緒あるものです。

懇親会には、新型コロナウイルス感染の影響で、開催間際に参加辞退された方もいましたが、岡山大学の旧職員である同志社大学石原名誉教授を含めて、合計23名が参加しました。懇親会開催前に、道を挟んだ西側に隣接する島津製作所の「創業記念資料館」の見学を行いました。同社の明治初期以降の数々の開発品の展示説明にあっという間に、予定時間が経過しました。資料館内で記念写真を撮影後、懇親会会場に移動しました。

宴席の準備が整って、真鍋支部長の開会の挨拶、石原名誉教授の乾杯の音頭で懇親会をスタートしました。会員相互の歓談で席が和んだ頃から、参加者全員から近況報告や出席者への参考情報などの提供がありました。近況報告後に、いつものように全員で岡山大学学生歌を斉唱しました。



参加者の記念写真（枠外は写真撮影時に不在の参加者。）

令和3年度も総会・懇親会を開催の予定です。開催日が決まれば、過去に参加いただいた方にPCメールで改めてご案内する予定です。

不明時の問い合わせは世話役（大森 勝（電気2期）:momoritakatsuki0822@gmail.com）まで問い合わせをお願いします。（文責：電気工学科 昭和42年卒 大森 勝）

工学部同窓会関東支部活動報告

支部長 笹川廣太郎（S50年、生産機械工学科8期生）

岡山大学・工学部卒業生の皆様、一年半にもおよぶ新型コロナウイルス感染症がもたらす日常生活への制約に大きなストレスを蓄積され我慢の生活を余儀なく過ごされている事とお察しいたします。もちろん関東支部の活動も完全停止状態です。今年に入り5月連休前に三度目の緊急事態宣言が発令。沈静化どころか爆発的感染力の強い変異種により全国的拡大が続いています。失われた30年というGDPが成長しない日本において今回のコロナ禍はさらなる日本経済を大きな縮退へ追い込んでいます。このような状況下でもK字型経済と呼ばれるように飛躍的に伸びている業界や旅行・飲食業界を代表する大打撃に見舞われた業界もあります。まさに大きな時代の流れの転換点ともいえる現在は変化への対応力が求められます。先取りするか？追われるか？大きなエネルギーを必要としています。その中で我ら岡山大学工学部も2020年で創立60年になりました。多くの関係者・人材が弛まぬ努力を続けた結果だと誇りに思います。60年の間に学科の新設統配合を経て絶えず時代の変化を俊敏にとらえ社会の要請に応じてきた学部運営者の皆様の努力に敬意を表したいと思います。また2021年4月には従来の工学部と環境理工学部の統合により新生工学部が誕生しました。これにより中四国でも最大規模の工学部となり、さらなる次世代の技術に従事する人材が育つだろうと期待されます。さて、時期の見極めが難ではございますが、今年こそ私達、関東支部の活動もこれら母校の活動に連動し、従来の環境理工学部OBとの一体化をめざし懇親会やセミナーを企画し、人の輪で母校を応援したいとの思いです。そこで、この寄稿を通じて今一度卒業生各位にお願いがござります。国立大学法人化以降、毎年、文部科学省からの事業予算が数億円単位で削減されています。工学部の年間研究予算は驚くほどの少額です。あらゆる組織活動には資金が必要です。ぜひ少額でよいので同窓会や工学部、alumni（全学同窓会）経由で未来の日本を技術で支える寄付をお願いいたします。振込先は工学部同窓会HPに掲載されています。皆様のさらなるご発展を祈願いたします。

有明工業高等専門学校創造工学科の准教授の森山英明と申します。2003年4月に、岡山大学工学部の情報工学科を卒業後、同大学大学院自然科学研究科の博士前期、後期課程を修了し、現職の有明工業高等専門学校に赴任して、今年で10年目となります。

近況報告として、岡山大学における思い出、有明高専における現在の取り組み、および今後の展望についてお話しさせていただければと思います。

1. 岡山大学の研究室にて

岡山大学での9年間（本科4年間、博士前期課程2年間、博士後期課程3年間）を振り返ったとき、自分にとって一番大きな転機であったのは、本科4年生時における研究室配属でした。大学で勉強を学んでいく中で、コンピュータの基盤であるオペレーティングシステムとはどのような仕組みであるか、より深く勉強したいと考え、独自オペレーティングシステムの研究と開発をされている谷口・乃村研究室への配属を希望しました。配属当時は専門的な知識も少なく、周りについていくのも大変な状態でしたが、自身で仮説を立てて試し、少しずつ成果を積み上げていくという研究の面白さに惹かれ、研究を続けていくこととなりました。また、谷口秀夫先生、乃村能成先生を始め、山内利宏先生、後藤祐介先生、佐藤将也先生には、現在も研究等でご指導いただいております。

就職する際には、岡山大学で学び経験したことを多くの人に伝えていきたいと考え、谷口先生からの薦めもあって、学生と触れ合う機会が多く、かつ研究活動も続けることのできる高専を選択しました。

2. 高専における取り組み

ここからは、有明高専における現在の取り組みについて記述します。

(1) 学生との接点

プログラミング、システムプログラム、ソフトウェア工学、離散数学などの座学授業、情報システム演習や電子工学実験といった演習・実験を担当しています。近年ではCOVID-19の影響もあり、遠隔授業での対応も求められるので、オンラインによる配信を通じての授業展開もしています。

(2) 研究活動

高専の教員は、基本的に研究を行うことが求められています。このため、岡山大学の先生方と共同で研究を続けさせていただいています。また、有明高専の卒業研究生や専攻科生とも、一緒に研究活動を行っており、国内外の学会等にも参加しています。

(3) 学内業務

高専における学校運営の業務は多岐にわたります。これまでに学生のクラス担任、学生寮の運営を行う寮務主



有明高専のプログラミング演習の様子



研究室学生による国際学会での受賞

事室、主として生活指導を行う学生委員会等の業務を行ってきました。また、昨年度からは、学校全体の情報系端末室、ネットワーク、サーバ類等の管理を行うマルチメディアセンター情報基盤部のセンター長を引き受けております。

(4) その他の取り組み

高専におけるその他の取り組みとしまして、学生の課外活動等に関するコンテストやイベント参加のサポートをしています。私がこれまでに関わったものについて、いくつか紹介します。



高専プロコンでのデモンストレーション

(a) 高専プログラミングコンテスト

全国の高専生を対象に、年一回プログラミングの課題を設定し、アイデアを競い合うコンテストが実施されています（通称はプロコン）。聴覚に障害を持つ方を対象とした、音を可視化するシステムの作成という課題に対して、指導教員という立場で学生に助言や指導を行っています。

(b) ベンチャービジネスプランコンテスト

高専生のベンチャービジネスに対する素養を養う目的で、地域の主催するベンチャービジネスプランコンテストに学生たちが参加しました。助言指導を行いました。好評だったようで、学生のモチベーションの高揚に繋がりました。

(c) サイバークッキング隊

高専のサイバーセキュリティ人材育成事業（K-SEC）の活動の一環として、地域の幅広い年齢層を対象としたサイバーセキュリティ講習会のイベントを開催しました。高専生が中心となって企画し、ショッピングセンターの一角で、サイバーセキュリティに関するクイズ等を交えて呼びかけをしました。攻撃やマルウェアに対して上手く対処する＝「料理する」という意味を込めて、「サイバークッキング隊」として活動を行いました。これ以外にも、小中学生を対象とした定期的な講習会も開催しています。

(d) グローバル化に向けて

グローバル化に対応する学生を教育するために、教員



Queens Collegeの先生と記念撮影（右が筆者）



マラ工科大学での集中講義



サイバーセキュリティに関する実践演習



サイバークッキング隊の活動

の英語力向上という目的で、約1か月ほどニューヨークのQueens Collegeへ行ってきました。これは、豊橋技術科学大学との連携プロジェクトとして実施されたものです。また、タイのマラ工科大学におきまして、将来日本に渡って高専や大学で学ぶ予定の学生を対象に、授業を展開しました。学生は日本語を学んで2年とのことでしたが、多くの学生が日本語の授業を理解し、積極的に質問したので、非常に感銘を受けました。

3. 今後の展望

今回、寄稿させていただくにあたり、赴任当時を思い出し現在を見つめなおしますと、考えていたよりも多くの業務に携わり、対外的にも様々な機会を与えていただいていると感じました。また、現在の職務は楽しく、非常にやりがいがあります。有明高専に赴任してちょうど10年目ということで、自分に求められていること、自分がやるべきことをしっかり見据え、バランス良く取り組んでいきたいと思えます。また、自身のこれまでを振り返りますと、岡山大学での先生方との出会いに始まりまして、様々な方々との出会いにより成長することが出来た、恵まれていると感じています。有明高専で教えている学生に対しても、ぜひ良い出会いになれるよう、今後さらに自己研鑽を積んでいきたいと思えます。

寄付者一覽

工学部同窓会会員の皆様からご寄付いただきました。ご協力ありがとうございました。なお、匿名希望の方につきましては、御名前を載せておりません。

機械工学科

Table of donors for the Department of Mechanical Engineering, including names like 朗彦孝哲信宏 and 義和紀睦昭弘.

Table of donors for the Department of Production Machinery Engineering, including names like 平一夫人 and 浩邦輝一修.

Table of donors for the Department of Electrical Engineering, including names like 弘文二雄 and 克博浩康雅英秀.

Table of donors for the Department of Applied Chemistry, including names like 利芳謙昇宏志友 and 行一朗仁一.

Table of donors for the Department of Applied Chemistry, including names like 利進二輔 and 章哲良一.

令和2年度分
ご寄付者 486名 (匿名希望 115名)

同窓会会計報告（令和2年度）

一般会計

収支計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入 会費収入	3,880,000	3,720,000	160,000	372名 @10,000×372名
2. 寄付金収入 寄付金収入	912,000	889,890	22,110	487名 992口
3. 雑収入 同窓会報掲載料	270,000	150,000	120,000	コミュニティー広場
受取利息	100,000	97,590	2,410	普通、郵貯、有価証券
当期収入合計(A)	5,162,000	4,857,480	304,520	
前期繰越収支差額	4,759,602	4,759,602	0	
収入合計(B)	9,921,602	9,617,082	304,520	
II. 支出の部				
1. 事業費	3,640,000	3,041,361	598,639	
通信運搬費	1,095,000	1,138,431	△ 43,431	会報郵送料 他
会議費	90,000	0	90,000	
学部教育支援経費	100,000	0	100,000	
旅費交通費	100,000	0	100,000	
印刷製本費	1,629,000	1,858,263	△ 229,263	会報 他
消耗品費	10,000	7,513	2,487	A4用紙 他
助成金支出	600,000	0	600,000	
同窓会活性化経費	6,000	20,104	△ 14,104	レンタルサーバ 他
雑費	10,000	17,050	△ 7,050	振込手数料 他
2. 学科事業費	1,149,000	1,209,000	△ 60,000	
学科配分会費	1,149,000	1,209,000	△ 60,000	403名 @3,000円
3. 管理費	466,000	466,000	0	
業務委託費	400,000	400,000	0	(公財)岡山工学振興会
〃	66,000	66,000	0	同窓会員データメンテナンス 小野高速印刷(株)
当期支出合計(C)	5,255,000	4,716,361	538,639	
当期収支差額(A)-(C)	△ 93,000	141,119	△ 234,119	
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,666,602	4,900,721	△ 234,119	

基金特別会計

収支計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位：円)

科 目	決 算 額	備 考
I. 収入の部		
1. 寄付金収入 寄付金収入	0	
2. 雑収入 受取利息	122,236	有価証券
当期収入合計(A)	122,236	
前期繰越収支差額	4,564,753	
収入合計(B)	4,686,989	
II. 支出の部		
1. 事業費		
60周年記念(航空写真パネル代)	300,410	
当期支出合計(C)	300,410	
当期収支差額(A)-(C)	△ 178,174	
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,386,579	

2021年度 岡山大学工学部同窓会総会・懇親会の開催について

本総会では、新生「工学部」の設立による学部組織の再編に対応した「工学部同窓会」の同窓会会則の改正や幹事会の新体制を提案します。また、総会後には、懇親会を予定していますので奮ってのご参加をお待ちしています。但し、コロナ禍の状況によっては集まった開催はできなくなる可能性もあります。その時は、工学部同窓会ホームページ、及びメール（登録者）にてお知らせいたしますのでご確認下さい。

工学部同窓会総会

日 時：2021年10月23日（土）15：30－16：30（受付開始 15：00）

場 所：岡山大学工学部1号館1番教室（本館1階）

議 題：①工学部同窓会会則改正、②工学部同窓会幹事会の体制について、③学部の活動報告他

工学部同窓会懇親会（総会后、17：00－18：30；受付開始 16：30）

場 所：岡山大学南福利施設ピーチユニオン4階

懇親会費：2,000円（含アルコール、会費以上の内容です。工学部同窓会総会受付にてお支払い下さい。）

事前参加申し込み：メール(工学部同窓会事務局、ofst@okayama-u.ac.jp)にて、氏名、学科、卒業年、連絡先等を、10月15日(金)までにご連絡下さい。コロナ禍で変更の可能性もあります。詳細は工学部及び工学部同窓会HPでご確認下さい。

同窓会事務局より

工学部同窓会「コミュニティ広場」欄について

昨年度から募集を始めました。本年4月初旬にもメールにて募集しましたが、応募がありませんでした。

同窓会報、ホームページへの寄稿のお願い

会員の皆様からの寄稿をお待ちしています。掲載記事の内容、書式等は、既報の会報、HPを参考して下さい。なお、事務局・幹事により、内容により採否の判断、一部変更等をお願いすることがありますのでご了承下さい。

支部活動の助成について

工学部同窓会の支部が、総会、懇親会等を行う場合に、通信費（小野高速印刷㈱を利用した実費）及び懇親会等の会合に要する経費（50,000円/年）を助成します。詳細は事前に事務局にご相談下さい。

住所変更等の連絡のお願い

会報は全員に登録された住所に配布しています。住所変更がありましたら、メールまたはハガキ等により、お名前、住所、卒業学科（専攻）、卒業年度、電話番号、メールアドレス等（差し支えない範囲で）事務局までご連絡下さい。会報以外の情報もメールにて提供します。

同窓会名簿調査について

工学部同窓会では、5年ごとに名簿の調査を小野高速印刷㈱に依頼し、行ってきました。本年も調査の年に当たっています。書式が同封されていますのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。

寄付のお願い

同窓会は、皆様からの格別のお力添えに支えられて今日まで活動を行ってまいりました。また、事業継続と今後一層活発な同窓会にするためには、皆様からのご寄付に頼らざるを得ません。ご寄付は、一口千円からですが、ご都合に応じて何口でも結構です。よろしくお願い申し上げます。

郵便振替 01270-4-5233 岡山大学工学部同窓会

*同封の郵便振替用紙またはコンビニ支払い用紙をご利用下さい。通信欄にはお名前、住所、卒業学科（専攻）、卒業年度、電話番号、メールアドレス（差し支えない範囲で）、会報への氏名掲載の可否等をご記入下さい。

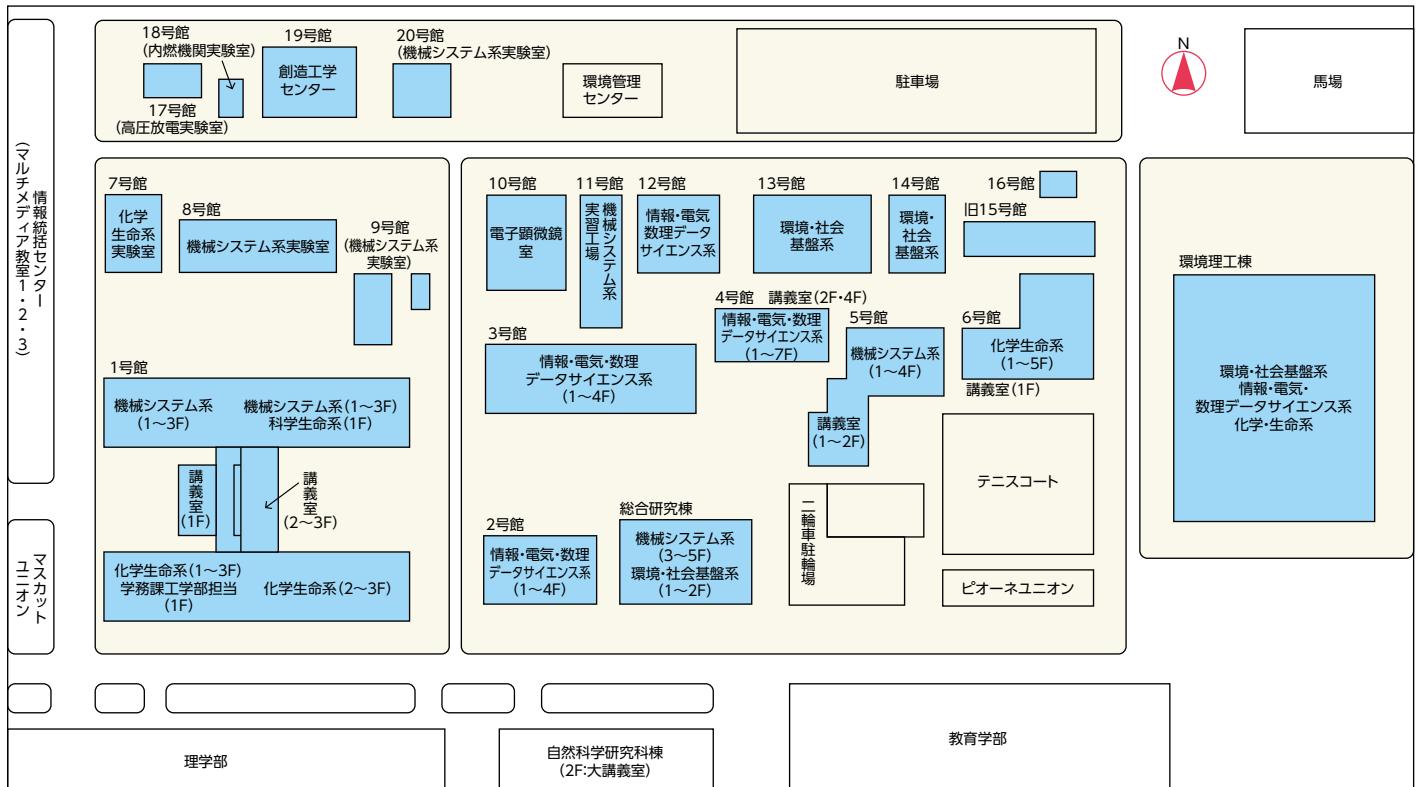
また、同封されているご案内の通り、「工学部講義棟新設のための寄付」依頼もありますが、そちらへのご支援もよろしくお願い申し上げます。

同窓生の皆様、学生時代の思い出って何を思い出しますか？私は自由で無駄な時間を友人たちと過ごし、様々な価値観に触れ、大人の自分スタイルの基礎を固めた貴重な経験、人々との出会いをまず思い出します。講義や学生実習の記憶なんてそれに付随する程度です。心で覚えたことと、頭で覚えたことは別物、どちらも貴重でその後の人生の糧となります。新型コロナの影響で、学生時代にやれることが大幅に制限された現役の学部生は本当に気の毒です。心から学生生活と勉学が楽しめる日々が一日でも早く戻ってくることを祈って止みません。現場の教職員にとっても、工学部創立60周年や新生工学部の誕生といった大きな変化がありました。まだ、主にオンライン上で

その変化を眺めている様な、なにか実感が持てない日々です。大学とは、人が集うことによって生まれる一体感、学生と教員が研究活動を共にして生まれる価値観の共有、ヒトとヒトの繋がりの中から生まれるドラマが心に刻まれる貴重な場であることを再認識させられました。改組により仲間を増やした工学部は、今や岡山大学に入学する約4人に1人が工学部生という大所帯となりました。岡山大学工学部での充実した経験を心に刻んだ人材を社会・産業界に輩出し続ける研究・教育機関として活力を維持していくためにも、同窓生の皆様からの引き続きのご支援を賜れば幸いです。

2021年度 学内代表幹事 二見 淳一郎

工学部建物等配置図



- 編集・発行：岡山大学工学部同窓会事務局
〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学新技術研究センター内
TEL・FAX (086) 255-8311
- メールアドレス：ofst@okayama-u.ac.jp
- ホームページ：http://oka-u-eng-alum.sakura.ne.jp/
- 印刷所：小野高速印刷(株)
〒670-0933 姫路市平野町62 TEL (079) 281-8837